



難病患者の在宅医療を支え

「医療功労賞受賞」

「第39回医療功労賞」
 (読売新聞社主催、厚生労働省・日本テレビ放送網後援、エーザイ協賛)を当生協理事長で大分協和病院の山本真院長が受賞し、1月28日に大分県庁で授賞式が行われました。

この賞は、長年にわたり地域に根ざした医療活動に尽力した人に贈られるもので、1972年に創設され今年で39回目を迎えます。今回の受賞は、全身の筋肉が次第に動かなくなる筋萎縮性側索硬化症(ALS)等の難病患者の在宅医療や、在宅医療を支える看護師やヘルパーの人材育成に長年取り組んできたことが認められたものです。受賞について山本院長は「この賞は患者さんやそのご家族、スタッフら全員でいただいた物だと思っています。」と述べました。

また、1月24日には、宇佐市にある(株)徳永装器研究所の徳永代表取締役とともに県庁を訪れ、1999年から取り組んでいる「気管内客痰自動吸引システム」の開発研究について、昨年気管カニューレの厚生省認可に伴い、システムが実用化したことを廣瀬知事に報告・説明しました。この研究は2006年度の大分県ビジネスグランプリで最優秀賞を受賞した経緯もあり、知事は実機に触れたりしながら「グランプリ受賞後も改良を重ねて実用化したのですね。今後とも頑張ってください。」と述べられました。

「(矢野)

だから少子化に歯止めをかけなければという思いを誰しもが持つ。一方で子育てはカネも労力も大変だとの情報が溢れる。若者は就職難。そして、「このままでは社会保障制度が維持できない」と聞かされる。私たちはいつの間にか子どもを生むということが義務だという考えに陥っていないだろうか。

そうではなくて自然に子どもを生み、育てたいという社会作りが必要だ。何よりも大人を無条件で笑顔にする赤ちゃんの力、大人をハッとさせる子どもの発想力は、社会に希望を与える。」

「(河)



発行者
 大分県勤労者医療生活協同組合
 大分市大字宮崎953-1
 電話 097-568-2299



フラス思考で 生き抜こう

2月の豊後大野地区労働者福祉協議会主催のメンタルヘルス学習会で、協和病院の吉里心理士が講師を務めました。

テーマは、『心の病、その予防と対応』で、「うつ病・心身症」を中心に心と体の関係について話しました。特に興味深かったのはリフレミング（教育や経験などで形成された物事を把握するメガネを他のメガネに掛け替えて物事を考える）という方法です。

ストレスを溜めないためのセルフケアにおいて、マイナスの事をプラスの言葉に言い換えるもので、例えば「口下手」というマイナスの印象は「謙虚」「聞き上手」というようになります。

この方法は、自分の短所を長所に置き換えるこ

とで前向きになれます。職場でもお互いを理解し合う方法として有効だと思えました。

○ルーズな↓おおらか

○面白みのない↓実直

○飽きっぽい↓好奇心旺盛
(本部：武石)



虹のバレン タイム行動

医療福祉生協連に加盟している全国の医療生協は、1997年から毎年2月14日にあわせて「虹のバレンタイン行動」に取り組んでいます。

この取り組みは、地域の皆さんや組合員の方々

とのつながりを深め、より良い医療、福祉について皆さんと一緒に考えようということが主な目的です。大分協和病院のりハビリ室でも、職員から治療にみえた患者さんにメッセージカードとチョコを手渡し、患者さんとの会話も弾んでいます。(リハ室：後藤)



難病研究会に 参加して

1月22日に第1回大分難病研究会がソレイユで開催されました。第一部

は難病支援に係っている医療関係者、就労支援、ネットワーク支援などの研究発表が行われ、活発

な意見交換が行われました。山本院長も「たん自動吸引装置」の完成と市販後の状況について発表しました。

第二部は、宮城病院神経内科の今井尚診療部長が「神経難病患者の自律性を育むチームアプローチ」という記念講演を行いました。先生の援助姿勢は、身体が不自由になっても自分自身で生活

災害対応能力は 大丈夫か || ぼうさい塾に学ぶ ||

県生協連加盟の11生協の担当者が参加して「ぼうさい塾(図上演習)」が行われました。別府地溝南縁断層を震源に大分県西部地震が発生したという想定です。

大分協和病院には近隣の患者が押しかけ、他の医療機関から患者受け入れ要請があります。頼みの佐伯診療所とは道路崩

をマネジメントできるようになることをめざして、患者さんが病気を受け入れ、自分の力で生き直すようにしたいということです。

どうしても身体的援助に目がいきがちですが、どんな状況でも患者さんが自分の人生の主役であり続けること、それを支えることの大切さを学びました。(外来：小野)

壊で往来不可能。情報は錯綜し、職員の安否確認もままなりません。

緊迫した状況下で何ができるのか。平時からの取り組みの重要性を痛感しました。

(本部：中村)



どうなる介護と医療の連携
 Ⅱ医療と介護リハビリは
 なぜ併用できないのかⅡ

2007年診療報酬改定後は、同じ病気で介護保険によるリハビリテーション（以下リハビリ）と医療保険のリハビリを同時に利用できなくなりました。介護保険のリハビリは訪問と通所（デイケア）があります。

厚生省は、急性期に集中的に入院リハビリを行い、一定期間を過ぎたら

インフルエンザは、カゼと違って38〜39℃以上の高熱と頭痛、だるさ、筋肉や関節の痛みなど全身症状を伴うのが特徴です。インフルエンザはウイルス感染のため、特效薬が開発されています。

現在使われている主な薬は、タミフルカプセル、リレンザ吸入薬、イナビル吸入薬、ラピアクタ注射薬があります。

介護保険のリハビリへという政策を進めてきました。しかし、介護保険でのリハビリは、その人の要介護度によって利用可能なサービスが決められるため、必ずしも症状に見合ったリハビリが十分に受けられるとは限りません。デイケアは利用定員毎に専門療法士の配置が決められていて、個別リハビリは医療でのリハビリと比較し、時間や内容が制限されます。

先日、患者さんが介護保険のデイケアを利用していることがわかり、医療保険のリハビリができなくなりました。ご本人は「やつと足のしびれが改善され、調子が良くなってきたのに」と残念がっていました。

来年4月には、医療と介護の報酬に関する大幅改定が行われます。「医療と介護のすみ分け」が主な論点となるでしょうが、患者の回復という視点の議論が望まれます。

（リハ室：後藤）

インフルエンザと薬

タミフルは、通常1日2回、5日間服用。幼少児にはタミフルドライシロップがあり、体重別に処方されます。

リレンザは、気道内に吸入。1日2回、2吸入し、5日間使用します。

イナビルは、昨年発売になった薬で、これもリレン

ザと同様に気道内に吸入。10才未満は1本2吸入。10才以上は2本4吸入で1回投与で効果が数日間持続します。その点では画期的な薬です。

ラピアクタは注射薬で、入院するような重症の患者に用います。これらの薬は症状発現から48時間以内に投与される必要があります。

（薬局：野崎）

読者のお便り

読者の感想が寄せられています。その一部をご紹介します。

- 医療制度見直しなどよくわかります。安心できる社会を望んでいます。
- AKA 治療を義母が受けています。膝の水がたまるずに楽しています。
- 「食事と健康」身につまされることばかりです。改善に努力します。
- 高齢者に厳しい世の中です。生きていて良かったと思える社会を望みます。
- サンタさん御一行、すてきなことですね。患者さんの笑顔が印象的でした。
- 日本人の飽食の一方で、高齢者の粗食が気になっています。
- 介護保険見直しの記事、読みやすく、よくわかりました。

Q1

郷土クイズ

大分県内にも多くの戦争遺跡があります。次のヒントの戦跡は何と呼ばれていますか。
 ヒントA=宇佐市 戦闘機 シェルター
 ヒントB=佐伯市 豊予要塞 砲台

Q2

算数クイズ

カタカナを数字に変えて計算式を完成させてください。

$$\begin{array}{r}
 7 \text{ ア } 9 \\
 \times \quad \quad \text{イ } 2 \\
 \hline
 1 \ 5 \ \text{ウ } 8 \\
 \text{エ } 9 \ 4 \ 5 \\
 \hline
 \text{オ } 1 \ 0 \ 2 \ 8
 \end{array}$$

- （1月号当選者）
 大倉てるみ大分市
 今村 博子大分市
 菅原 彩希大分市
 河野 健造大分市
 中村 昭秀大分市
 後藤 幸司大分市
 渡辺 勝子佐伯市
 加藤 幸子佐伯市
 清家 良子佐伯市
 小島 菜白田市
- Q1 A 塚原鯉泉 B 七里田温泉
 Q2 ア12 イ14 ウ16
 エ10 オ12

【応募の仕方】
 ハガキに「答え・住所・氏名」と「お元気ですか」の感想などをお寄せ下さい。抽選で10名の方に図書カードを進呈します。
 （送り先）
 〒870-1133 大分市宮崎953-1
 『勤労者医療生協』宛
 （締切り）4月7日

お楽しみクイズ

「HPV・ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチン接種」についてお知らせ

①子宮頸がん予防ワクチン(HPV)
 全国的にワクチンが不足しており、新規の方への接種ができない状況です。現在は接種希望のご予約のみ受付けています。ご予約された方には、ワクチンが入り次第順次ご連絡いたします。

②ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン
 3月4日付けで厚生労働省より両ワクチンについて、一時的に接種を見合わせるよう通知がありました。これは小児用肺炎球菌及びヒブワクチンを含む同時接種後の死亡報告があったためです。今後の接種については、厚生労働省からの通知があるまで未定です。

※この「お知らせ」につきましては、3月7日現在の状況です。詳しくは医療機関へ問い合わせ下さい。